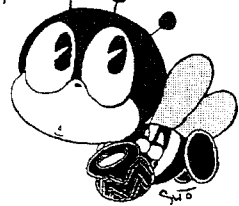


新しい風、生涯学習。



“マナビィ”

生きることへの基礎づくり

高まる幼児教育の重要性

子どもたちには、無限の可能性があるとされます。しかしまた、環境の影響により変化する可塑性に富むものです。人間形成の上で大切な幼児期の子どもたちが、何を体験し、学び、行動するかを地域ぐるみ、まちぐるみで考えることが望まれています。

個を育てる集団活動の促進

- ・幼稚園、保育園の集団活動を重要視する。
- ・さまざまな立場で子どもの集団活動を推進する
- ・地域ぐるみの活動を振興する

さまざまな立場のネットワークづくり

- ・家庭、幼稚園、保育園、学校
- ・各種関係行政機関や施設
- ・各種団体やボランティア活動
- ・企業、職場や地域社会

子育て支援社会の実現



家庭教育の充実

- ・知、徳、体の調和のとれた発達をめざす
- ・家族とのふれあいの中で育てる
- ・親の生き方の重要性を考える



いきいきとした子どもの育成

- ・友だちと楽しく生活できる環境づくり
- ・生きる意欲を育てる
- ・知識偏重から人間性重視へ

自分をつくり 都留をつくる 学びのまちづくり

幼稚園・保育園は、このような幼児期の教育において重要な役割を果たしています。個人差や発達特性などに配慮し、遊びを主とした生活体験から、人や自然とのふれあいや身近な環境とのかかわりあいを通して、基本的な生活習慣の形成をはかりながら子どもたちのすこやかな成長のための指導にあたっています。

そして、その集団活動から、自主性・自律性が養われ、社会生活への正しい態度が芽生え、生涯を通しての人格形成の基礎がつけられます。

また、幼児期における子どもの育成には、園との連携をはかるなかで、生涯学習の原点である家庭における幼児教育の認識を高めること、地域ぐるみの子育て支援社会の実現が期待されています。

社会生活の芽生え 幼稚園・保育園の 学びから



人間として、最初の生活の場は家庭であり、そこから次第に生活の場が広がっていきます。

社会性が身につくこの時期に、集団としての活動を体験することは、子どもの成長にとってきわめて大切なこととなります。